

- ▶ 巻頭言…1
- ▶ **特集** アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業について…2
- ▶ 研究所の活動報告…3
- ▶ データで見る草津市…4

草津未来研究所は2010(平成22)年に設置された草津市の組織内シンクタンクです。本市の未来を見据えた創造力のある政策を提案し、政策審議機能の充実に寄与するため、課題解決や政策立案するための「調査研究」と政策形成の質を高める「人材育成」の活動を行っています。このニュースレターでは、それらの活動の一部を紹介しています。掲載された内容は執筆者の個人的見解であり、市の公式見解ではありません。

巻頭言

UDCBK（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ）創設

UDCBKはまちづくりの拠点

2016年10月、待望のUDCBKが創設されました。UDCBKは関西初のアーバンデザインセンター（UDC）であり、全国では13番目のセンターとなります。ちなみに、最初のUDCは10年前に千葉県柏市にUDCKとして創設されました。センターの名称は、UDCの名前の後に地域名などの略称を付けるのが習わしで、全国にUDCネットワークが展開されています。

さて、草津市の最近の都市ニュースといえば、「住みよさランキング2016」（東洋経済新報社）で、全国813都市・区のなかで総合20位にランクインしたことでしょう。近畿ブロックに限ると4年連続1位であり、草津市は住みよい街と評価されています。また、草津市は全国的にも珍しい人口増加が続く地方都市としても知られています。平成27年国勢調査の速報値でも、多くの都市が人口減の中、過去最高の137,327人になりました。

では、草津市のまちづくりに問題はないのかというと、決してそうではありません。人口が増えているとはいえ、少子高齢化は着実に進んでいきます。

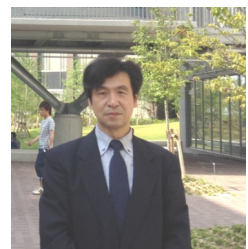
環境負荷の低減や防災の問題、さらには産業の育成や地域経済の活性化など、現代都市が直面する課題と決して無縁ではありません。街の美しさの問題もあります。このような多様で複合した問題の解決のためには、かつてのように行政にすべてを委ねる訳にはいきません。近年はまちづくりへの市民参画が当然のことになり、また、民間企業もCSR（社会的責任）の一環としてまちづくりに参加する機会も増えてきました。

こういった潮流を背景として、「民（市民）・産（企業）・公（行政やNPOなど）・学（大学）」が連携・協力・協働し、まちづくりの問題解決に取り組む組織が考案されました。それがアーバンデザインセンター（UDC）です。UDCは、いわばまちづくりの拠点、プラットフォームといえます。

立命館大学理工学部
教授

及川 清昭

(おいかわ きよあき)



1953年生まれ。東京大学、同大学院卒。工学博士。現在、立命館大学理工学部教授。専門は建築・都市計画学。東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授を経て、2003年より現職。立命館キャンパス計画室室長。2016年10月よりUDCBK所長。共著に『トルコ・イスラーム都市の空間文化・「摩天楼の要塞都市サナアとシバーム」』（山川出版）など。

UDCBKの果たす役割

ではUDCBKは何をする場所なのか。その役割を端的に言えば、まちづくりに関する人・情報・智慧・活動を結集し、その方向を定め、課題解決の方法を提案することです。具体的には、以下のように5つの場として整理することができます。

①民・産・公・学の交流・学習の場：

まちづくりには、まず、地域を知りお互いを知ることから始める必要があります。老若男女を問わず、特に草津の次世代を担う若い人たち、時には中高生から実務者・行政職員・大学教員・学生に至るまで、さまざまな立場の人々がまちづくりの学習や活動を通じて交流を深め、ネットワークの輪を広げる、そのようなまちづくりの交流ステーションとなることが期待されます。いわば、コミュニティを育てる場と言えます。

②まちづくり活動の実践・支援の場：

UDCBKの主要なミッションのひとつが、市民活動団体などと連携し、まちづくり関連イベントや新たな活動を実践・支援することです。また、大学や企業、市民が提案・実践する「調査研

究」や「社会実験」も大きな活動の柱となります。

③まちづくり情報の集約・発信の場：

UDCBKは草津市のまちづくりに関する情報を集約し、発信する役割も担います。活動の過程や成果などの最新の情報を収集・整理し、広く公開することで、常にオープンな組織と拠点であり続けることができます。いわば、UDCBKが”まちづくり情報のハブ”になることが期待されます。

④まちづくりの将来像を共有する場：

草津市の将来像とはどのようなものか、なかなか市民の間で共有されていないのが実態かと思えます。まちづくり活動は盛んでも、活動の中に具体的な空間イメージが伴っていないと意味はありません。草津市の将来像を共有するためには、ワークショップなどでの議論はもちろんのこと、将来像を可能な限り可視化する必要があります。そのためには、UDCBK内に都市模型やイメージパースなどを掲示することが重要と

考えています。

⑤デザインマネジメントとエリアマネジメントの実践支援する場：

街並みのルールづくりや都市デザインを誘導するデザインマネジメントの仕組みづくりもUDCBKが担います。加えて、エリアマネジメント、すなわち、良好な環境を維持・向上させるために住民や事業主による主体的な取り組みを支援することも考えられます。

草津の未来を描く

草津市には若い世代が多く、また大学街、旧宿場町でもあり、先進と伝統が共存しています。琵琶湖もあります。このような街が有する資源をもっと活用すれば市民が住みよさを実感できるでしょうし、ひいては、草津市民の都市生活の質（QOL）の向上につながると思います。民・産・公・学が一体となって、UDCBKが草津の輝かしい未来のデザインを描き続けられるように努力したいと思っています。

特集

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK) 事業について



アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK) 概要

草津未来研究所では、産学公民が連携して草津の未来のまちのデザインを考える

ために平成28年10月15日(土)に、南草津駅前のフェリエ5階にアーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK) を開設しました。



▲ UDCBKオープンスペース
出所：gooHP (中日新聞)7A)

アーバンデザインのアーバンとは「都市の」という意味です。またデザインは、モノのカタチのようなハードだけではなく、ライフプランをデザインするというようにソフト面のことも指す広い概念です。またデザインは、「様々な媒体で表現する」という意味もあります。アーバンデザインとは、今までの地図や計画書などのような平面的な都市計画（アーバンプラン）ではなく、動画やCG（コンピューターグラフィック）やジオラマ模型など動的立体的に表現することで

す。このようにUDCBKは、草津の未来のまちのデザインについて、草津の未来をよくしたいという志をもった人々が、色々な経験や考えや思いをもって集まり、交流を深め、気軽に自由に草津の未来について語り合う場です。そのため、UDCBKでは、囲いをつくらないオープンスペースとし、お子様連れの方も積極的に受け入れているという思いが伝わるよう、こども向けの

ポスターや、玩具等を備え付けています。また、UDCBKのプログラムに限ってですが、簡単な飲食ができるようにし、和んだ雰囲気のかな、活発な議論を引き出す工夫もしています。

そして、その対話の中から出てきたテーマについて、さらに理解を深めるために学習や調査等を行い、市担当部署との意見交換や、効果が期待できるものについては、草津市が包括協定を締結している5大学（立命館大学、滋賀大学、成安造形大学、京都橘大学、滋賀県立大学）と検討を重ねて社会実験に繋げていきたいと考えています。

UDCBKは、自由で気軽に草津の未来を語り合っただけ、その中から出たアイデアを実現するために、大学が持つ「知」、企業が持つ「技術」などを積極的に活用してもらう場所です。ぜひお立ち寄りください。今年度に予定しているプログラムの一部を紹介します。

MAP: 南草津駅、フェリエ南草津、UDCBK、図書館事務室、プラザ事務室、南草津図書館、野村病院、矢倉小、滋賀銀行、西友、マクドナルド、福楽通、ACCESS 南草津駅徒歩1分

TEL: 090-2709-9320 FAX: 077-561-2489

525-0059 滋賀県草津市野路1-15-5
フェリエ南草津5F 市民交流プラザ オープンスペース

開室日：火～土曜日
火・木・土 10:00～18:45
水・金 11:30～20:15

閉室日：日・月・祝日(月曜が祝日の場合、火曜)
年末年始(12/29～1/3)
その他、フェリエ南草津の休業日に準ずる

kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp
https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/soshiki/sogoseisokubu/miraikenkyusho/

② アーバンデザインスクール ②

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）の企画や運営に積極的に関わり、市民の間を繋ぐ媒介の機能を担う専門家を育成することを目的に実施しています。

プログラムの詳細は草津市ホームページに随時、お知らせします。 (UDCBKシニアディレクター 溝内辰夫)

- ・ 第3回 平成29年1月14日(土)
「UDCBKの検討経緯について」
- ・ 第4回 平成29年2月18日(土)
「南草津駅の商業集積について(仮)」
- ・ 第5回 平成29年3月11日(土)
「これからのUDCBKについて」

「UDCBK事業キックオフイベント」の開催

UDCBKを開設するにあたり、10月15日(土)にキックオフイベントを開催しました。関西初となる待望のUDC オープンということもあり、約80名の方にお越しいただき、「草津歌劇団」や「コーラスグループ『カラーズ』」のパフォーマンスのもと、華々しくオープンしました。また、全国のUDCネットワーク(柏の葉アーバンデザインセンター)代表を務める出口教授や、UDCBKセンター長の及川教授の基調講演とパネルディスカッションを催し、UDCに対する理解や関心を持っていただく内容となりました。同時に、オープンスペースの内覧会も行い、新聞各社にも取り上げられ、社会の関心も集まっています。その裏では、前日まで連日連夜、資料づくり、パフォーマンスのための練習、部屋のデコレーションなど、多くの方々の協力があったの開設にこぎつけることができ、大変感謝しています。

(主任研究員 相井義博)

1. 歌と踊り(祝舞)



草津歌劇団
「大好き草津メドレー」
ほか

プログラム



▲ 出口UDCBKセンター長



▲ 及川UDCBKセンター長

2. 挨拶

橋川市長、松原豊彦(草津未来研究所長)

3. 祝辞

中嶋 昭雄 (草津市議会議長)

4. UDCBKスタッフ紹介

及川 清昭 UDCBKセンター長
武田 史朗 UDCBK副センター長
溝内 辰夫 UDCBKシニアディレクター ほか

5. 基調講演

- 「全国に広がるアーバンデザインセンター・ネットワーク」
出口 敦 UDCBKセンター長(東京大学大学院教授)
- 「UDCBKの目指すところ」
及川 清昭 UDCBKセンター長(立命館大学教授)

6. パネルディスカッション



コーディネーター：
肥塚 浩氏 (立命館大学教授)

パネリスト：
出口 敦氏、及川 清昭氏、
福井 太加雄氏(草津市まちづくり協議会連合会会長)、
橋川市長

7. フィナーレ



合唱コーラスグループ
カラーズ
「出会いの街くさつ」

報告

研究所の活動報告

第4回自治体シンクタンク研究交流会議 in SASEBO への参加

今年で4回目となる自治体シンクタンク研究交流会議が、11月4日、5日の2日間にかけて長崎県佐世保市で開催されました。草津市からは草津未来研究所相談役、顧問等が出席しました。この会議は本市も発起人の1団体であり、自治体シンクタンクのあり方や共通課題の改善方策について話し合い、各組織の運営能力や政策形成能力の向上を図ることを目的としています。

交流会議には北は宇都宮市、南は熊本市から全国の自治体シンクタンク関係者が参加しました。

1日目は、「政策形成における自治体シンクタンク・スタイル」、「シンクタンク運営に係る人材、組織、予算」をテーマに、グループごとに議論の後、発表を行いました。2日目は、「自治体シンクタンクの官民連携と広域連携への関わり方」をテーマにパネルディスカッションを行いました。今後の草津未来研究所の取り組みに生かしていきます。

(研究員 岡安 誠)



2015(平成27)年国勢調査 人口ピラミッドによる比較分析

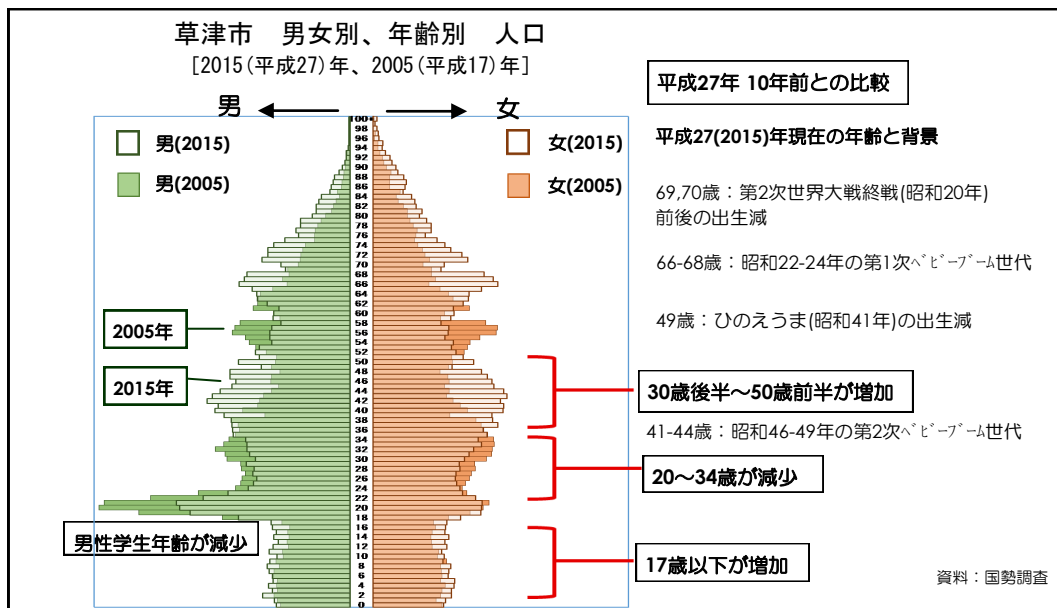
国勢調査・確定値(平成27年10月1日実施)が2016(平成28)年10月26日発表されました。草津市の総人口は137,247人、前期比4.9%増、増加率はやや緩やかになったものの着実に人口が増えています。一方、全国では人口減少社会に本格的に入り、約8割の自治体が減少でした。そこで人口ピラミッド(男女別・各歳別)により、2015(平成27)年(淡色)の人口構造を10年前(2005(平成17)年・濃色)と比較して現状分析を試みました。

まず注目されるのが17歳以下が増加していることです。草津市は子どもの数が増えており、また転出入からみて「子育て世帯に選ばれる市」となっています。次が30歳代後半から50歳代前半の働き盛りの増加です。本市で人口ボリュームの大きい第2次ベビーブーム世代がこの層に含まれることに加え、市内や周辺の雇用が良好であることが指摘できます。

一方減少したのが20歳代～34歳で、出生率が低下した後に生まれた世代です。本市では34歳位までに出産する母親が多いことから出生数が今後減少することが懸念されます。

大幅に減少したのが男性の学生年齢層(18～24歳位)で、市外からの通学生の増加や経営学部が立命館大学びわこ・くさつキャンパスから転出したことがあって、市内に居住する男子学生が減少したことが原因です。

63歳位から上の高齢者が増加しており高齢化が確実に進んでいます。10年前は50歳代だった第1次ベビーブーム世代が65歳を超えたことも影響しています。



2015(平成27)年の草津市年齢3区分人口は、年少人口(15歳未満)が増加、生産年齢人口(15～64歳)が減少、老年人口(65歳以上)が増加でした。生産年齢人口が減少したのは本市では初めてのことで、生産年齢人口の減少と年少人口と老年人口の増加が同時に起きたことで従属人口指数(生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示す)が急上昇しました。

県内市町では、本市の人口増加は突出して多く、数(6,373人)・率(4.87%)ともに最大で、増加数は本市の次に多かった大津市(3,339人)の2倍近くになります。本市と周辺の大津、守山、栗東の3市が増加だったことから本市を核に人口増加地域が形成されているといえます。県全体では0.15%増だったものの、増加6市町、減少13市町となっており、滋賀県でも人口減少する自治体が増えています。県内からの転入が多い本市でも人口減少が現実となることを認識しておく必要があります。

今後近畿をはじめ全国で人口減少が急速に進むことから本市もその影響を避けられません。全国的な人口減少の影響を受けながらも本市では今年4月老上西小学校が新設されるなど子どもや子育て世帯が増えており、人口減少社会の中で増加する住民に対応していく基礎自治体として、双方のバランスをとりながらの高度な政策判断が求められています。(参事 政策研究担当 中村 円)

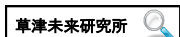


草津未来研究所ニュースレター No.20 December.2016

【編集・発行】草津未来研究所

〒525-8588 草津市草津三丁目13番30号 TEL：077-561-6009 FAX：077-561-2489

E-Mail：kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp ホームページはこちら



草津市公認マスコットキャラクター
たび丸